

1220

第九號

政務官 書記官 回付(決行前)

甲 兵 (決行後)

審案 書記者

陸

軍

保存期限

受領 番號

參第 一三九三號

起元應(署名)

陸軍航空本部

決裁指定

永久

姓名

二號安瓦藥制式制定ノ件

決行指定

大區

官次

政務次官

官次

政務次官

參與官 高級副官 主務局長

主務局長

副官

書記官

主務局長

副官

主務局長

副官

大臣官房

主務局長

受領

提出

昭和

昭和

昭和

昭和

年

年

年

年

五月廿四日

三月廿九日

三月廿九日

三月廿九日

三三三



陸密 副官ヨリ陸軍航空本部長へ通牒

首題火薬容年十月八日附航ニ發第三四五ニ號上申ノ通定メラルヘキニ付該表(修正表共)ニロロ部送付セシレ度

陸密第二二四號 昭和拾參年參月拾壹日

右送付了ル後左案次行相成度

ニ號安丸藥制式制定並修正ノ件

陸密 副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ通牒

陸軍制式火薬中別紙ノ通 制定並追加並修正セラレニ付該表 部送付ス

陸密第二四七號 昭和拾參年參月拾六日

昭和拾參年五月廿壹日 理子丸送付



件名		應名部數		內		應名部數		內	
陸軍省永久保存	記室					待從武官府			
席上配布						元帥府			
官房				大臣次官 閣官 官主 文書 往復 印刷 修規 特許 擬修 政規 恤兵部 電信 圖書		軍事參議院			
書記官						參謀本部			
人事局				局長 補任課 徵集課 恩賞課		教育總監部	九		
軍務局				局長 軍務課 軍務課		陸軍技術本部	三三		
兵務局				兵務課 防備課 馬政課		陸軍航空本部	二		
整備局				局長 整備課 整備課		陸軍築城本部			
兵器局				局長 銃砲課 機槍課		軍馬補充部本部			
經理局				局長 主計課 監查課 衣糧課 薪給課		陸軍兵器本廠	一		
醫務局				局長 衛生課 醫事課		陸軍造兵廠	六〇		
法務局				局長 局員		陸軍經理學校			
政務官						憲兵司令部			
新聞班						東京警備司令部			
陸軍中央無線所						高等軍法會議			
						會計検査院			

ニ號安瓦藥茲修正表配賦表

書留 封書 小包 筒 日發送

昭和 年 月 日 〇〇部印刷

配布數一三一 部 殘六九部

三三

朝鮮軍	關東軍	支那軍	臺灣軍	航空兵團	陸軍運輸部	陸軍糧秣本廠	陸軍被服本廠	陸軍獸醫學校	千住製絨所	軍用勸業調查委員	陸軍衛生材料廠	皇族	各省	海軍省	宮內省	內閣
司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫

第一師團	第二師團	第三師團	第四師團	第五師團	第六師團	第七師團	第八師團	第九師團	第十師團	第十一師團	第十二師團	第十四師團	第十六師團	第十九師團	第二十師團	第一師團
司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫	司令官 兼 經理 軍醫 陸務 軍法 要務 倉庫

航二發第三四五二號

二號安瓦藥制式制定ノ件上申

昭和十二年十一月八日

陸軍航空本部長 稔 彦

陸軍大臣 杉 山 元 殿

首題火藥審査ノ結果實用ニ適スルモノト認ムルヲ以テ制式トシテ制定セラレ度左記書類相添へ上申ス

追而制定ノ上ハ昭和十一年十月六日陸密第九五九號制定陸軍制式火藥表中ノ「安瓦藥」ヲ「一號安瓦藥」ト改正セラレ度

左記

- 一、二號安瓦藥審査經過ノ概要 一部
- 一、陸軍制式火藥表二號安瓦藥 二部
- 一、兵器秘密取扱區分表 一部

三九三

軍



115511

陸軍



別紙第四

二號安瓦藥審查經過ノ概要

一、黄色藥及茶褐藥ハ資源豊富ナラサルヲ以テ之カ缺乏ニ備ツルニシテ二號安瓦藥ト略々同一成分ノ安瓦藥ニ就キ數年前ヨリ火工廠研究課等ニ請テ研究セラレ既ニ砲彈用トシテ制式制定セラレタリ爆彈用トシテ昭和九年以來火工廠研究課、陸軍技術本部及航空部隊協同シ各種ノ試験ヲ實施セリ其ノ結果本爆藥填實爆彈ヲ尋常土砂又ハ北滿氷結土上ニ投下シタル場合ノ炸裂機構ハ概ネ良好ナルモ黄色藥填實爆彈ニ比シ威力劣ルニ非ラサルヤノ疑ヲ存セリ

二、然ルニ投下爆彈ニ在リテハ腔發等ノ虞アル砲彈類ニ比シ爆藥安全度ニ關スル要求低キヲ以テ之ヲ顧慮シ更ニ威力ヲ増加セルモノニ就キ火工廠研究課（造兵廠東京研究所）ニ研究ヲ委託シ投下爆彈炸藥トシテ採用スル爲本試製品ニツキ更ニ試験ヲ復行シ其ノ爆發威力ヲ確認スルコトトナシタリ

三、昭和十二年七月安瓦薬ノ威力増大ニ關スル成案ヲ得タルヲ以テ小銃彈ニ對スル安全度試験ヲ實施シ更ニ昭和十二年九月漏斗孔試験ニヨリ爆發感カヲ判定シタル所共ニ黄色薬ニ比シ遜色ナキヲ認メタリ

四、本爆薬ニ關スル主要試験報告拔萃別紙ノ如シ

昭和十二年七月
 安瓦薬
 威力増大
 試験報告
 抜萃別紙

主要試験報告拔萃

試驗實施部隊	陸軍技術本部	陸軍造兵廠東京研究所 陸軍技術本部
試驗報告	<p>昭和九年九月 陸軍技術部射報第四四號 新爆藥ヲ填實セル投下爆彈 第一回試驗報告 (安瓦藥填實爆彈ニ關シ填 實法火工作業法、砂井戸試 驗、漏斗孔試驗、機關銃彈 ニ對スル安全度試驗ヲ實施 セリ)</p>	<p>昭和十一年一月 陸軍技術部射報第六五號 安瓦藥ヲ填實セル爆彈傳火 藥研究第二回試驗報告 (安瓦藥填實爆彈ニツキ投 下試驗ヲナシ傳火藥ノ適否 ヲ試驗セリ)</p>
判決	<p>數次ニ亘ル火工廠研究課ノ試驗成績竝今回ノ試驗成 績ヲ綜合シ次ノ判決ヲ得タリ 一 試製安瓦藥ノ威力ハ黃色藥ト大差ナク其ノ衝擊ニ 對スル安全性ハ黃色藥ニ優ルトモ劣ルコトナシ而モ 本爆藥ハ資源豐富製造亦容易ナル等ノ特徴ヲ有スル ヲ以テ投下爆彈用炸藥トシテ頗ル有望ナリ 二 投下爆彈ヘノ填實法ハ作業ノ難易及防濕ヲ顧慮ス ルトキハ直填茶褐密封式ヲ最良トシ被包式之ニ亞 ク單ナル直填式ハ填實後直ニ使用スル場合ニ於テ ノミ適用スルヲ可トス</p>	<p>安瓦炸藥入新式大型爆彈ハ補助傳火藥筒ヲ使用セザ ルモ能ク炸藥ヲ完爆セシメ且其ノ地雷的威力ハ現制 黃色炸藥ト大差ナキモノノ如シ</p>

關 東 軍	陸 東 軍 京 造 兵 廠 究 研 所	濱 松 陸 軍 飛 行 學 校
<p>昭和十一年四月 關北試報第六號 昭和十年度北滿ニ於ケル冬 季航空ニ關スル試驗報告 其三 (爆彈投下試驗) (北滿ニ於テ安瓦藥填實 爆彈ヲ投下セリ)</p>	<p>研射報第八二號 投下爆彈用新爆藥長期保存 第四回試驗報告 (安瓦藥填實三年間保存ノ モノエツキ砂井戸試驗ヲ實 施セリ)</p>	<p>昭和十一年二月八日 濱飛研第一三六號 安瓦藥ヲ填實セル爆彈試驗 記事 (同右試驗濱報報告ナリ)</p>
<p>安瓦藥填實爆彈ノ爆裂機能ハ概ネ良好ナルモ其ノ效 力ハ投下彈數僅少ナルタメ的確ニ制式炸藥トノ比較 試驗ヲ實施スルヲ得ス 所 見 昭和十年十二月伊良湖射場ニ於ケル九四式五十疋 爆彈及九二式五百疋爆彈ノ地雷的效力ハ制式炸藥 ヲ填實セルモノニ比シ約六割程度ニ減少シタルニ 鑑ミ更ラニ多數彈ノ投下ニ依リ投下爆彈ノ炸藥ト シテ實用價值ヲ判定スルノ要アリ</p>	<p>茶褐蘆ヲ以テ密封セルモノ及密封セサルモノハ何レ モ其ノ外觀及威力共ニ前同ニ比シ遜色ナク保存性良 好ナリ(前四トアルハ二年保存後ノ試驗ニシテ外觀 及威力共ニ變化ナキ旨判決アリ)</p>	<p>安瓦藥ヲ填實セル投下爆彈 (十五疋及九四式百疋爆 彈ヲ除ク)ノ地雷的效力ハ茶褐蘆又ハ黃色藥ヲ填實 セルモノノ地雷的效力ノ約六割程度ニ相當シ遜色ア ルヲ認ム故ニ更ニ北滿試驗成績ニ依リ投下爆彈ノ制 式炸藥トシテノ價值ヲ判定スルヲ適當ナリト認ム尙 其ノ吸濕性除去ニ關シテハ研究ノ要アリ又補助傳火 藥ノ有無ニ關シテハ大ナル關係ナキモノノ如シ</p>

昭和十一年四月
關北試報第六號
昭和十年度北滿ニ於ケル冬
季航空ニ關スル試驗報告
其三 (爆彈投下試驗)
(北滿ニ於テ安瓦藥填實
爆彈ヲ投下セリ)

<p>陸軍 航空 研究所 技</p>	<p>陸東 軍京 造研 兵究 廠所</p>
<p>昭和十二年十月 新爆薬試験記事 (二號安瓦薬ニ就キ漏斗孔 試験ヲ實施セリ)</p>	<p>研究報第九十八號 (二號安瓦薬ノ小銃彈ニ對 スル安全度試験ヲ實施セリ 昭和十二年九月)</p>
<p>一、「ウ」六號ノ爆發威力ハ同一炸薬量ヲ以テスレハ 黄色薬ニ比シ遜色ナキモノト認ム 二、黄色薬填實ノ制式爆彈ト之ニ「ウ」六號ヲ填實セ ルモノト認概ネ同一效力ヲ有スルモノト認ム</p>	<p>安瓦薬系ニシテ硝字二〇%ノモノハ熔融黄色薬ヨリ 安全ナリ</p>

1230

(陸軍制式火薬表)

別紙第一

二 號 安 瓦 藥 (案)	種 別	爆 藥						
	番 號							
	頁							
<p>第一 成分及標準組成</p> <table border="1"> <tr> <td>硝酸 アンモン</td> <td>48 %</td> </tr> <tr> <td>硝酸 グアニジン</td> <td>32 %</td> </tr> <tr> <td>硝 字 藥</td> <td>20 %</td> </tr> </table>			硝酸 アンモン	48 %	硝酸 グアニジン	32 %	硝 字 藥	20 %
硝酸 アンモン	48 %							
硝酸 グアニジン	32 %							
硝 字 藥	20 %							
<p>第二 製 造 要 綱</p> <p>硝酸 アンモン 及硝酸 グアニジン ナ混合熔融シ 之ニ硝字藥ヲ均等ニ混和ス</p>								
<p>第三 主 要 用 途</p> <p>各種爆彈炸藥</p>								
整備區分	第 一 種							

兵器秘密取扱区分表

名	称
二号安瓦	薬
	軍事秘密

陸軍



陸軍省 銃 第一三九三號

航二發第三四五二號

二號安瓦藥制式制定ノ件上申

昭和十二年十一月八日

陸軍航空本部長

稔

彦

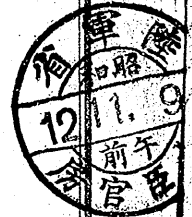
陸軍大臣 杉山 元 殿

首題火藥審査ノ結果實用ニ適スルモノト認ムルヲ以テ制式トシテ制定セラレ度左記書類相添へ上申ス

追而制定ノ上ハ 昭和十一年十月六日陸密第九五九號制定陸軍制式火藥表中ノ「安瓦藥」ヲ「一號安瓦藥」ト改正セラレ度

左 記

- 一、二號安瓦藥審査經過ノ概要 一部
- 一、陸軍制式火藥表 二號安瓦藥 二部
- 一、兵器秘密取扱區分表 一部





別紙第四

陸軍省

二號安瓦藥審査經過ノ概要

一、黃色藥及茶褐藥ハ資源豊富ナラサルヲ以テ之カ缺乏ニ備フルタメニ號安瓦藥ト略シ同一成分ノ安瓦藥ニ就キ數年前ヨリ火工廠研究課等ニ於テ研究セラレ既ニ砲彈用トシテ制式制定セラレタリ爆彈用トシテ昭和九年以來火工廠研究課、陸軍技術本部及航空部隊協同シ各種ノ試験ヲ實施セリ其ノ結果本爆藥填實爆彈ヲ尋常土砂又ハ北滿水結土上ニ投下シタル場合ノ炸裂機構ハ概ネ良好ナルモ黃色藥填實爆彈ニ比シ威力劣ルニ非ラサルヤノ疑ヲ存セリ

三、然ルニ投下爆彈ニ在リテハ腔發等ノ虞アル砲彈類ニ比シ爆藥安全度ニ關スル要求低キヲ以テ之ヲ顧慮シ更ニ威力ヲ増加セルモノニ就キ火工廠研究課（造兵廠東京研究所）ニ研究ヲ委托シ投下爆彈炸藥トシテ採用スル爲本試製品ニツキ更ニ試験ヲ復行シ其ノ爆發威力ヲ確認スルコトトナシタリ

三、昭和十二年七月安瓦薬ノ威力増大ニ關スル成案ヲ得タルヲ以テ小銃彈ニ對スル安全度試験ヲ實施シ更ニ昭和十二年九月漏斗孔試験ニヨリ爆發威力ヲ判定シタル所共ニ黄色薬ニ比シ遜色ナキヲ認メタリ

四、本爆薬ニ關スル主要試験報告抜萃別紙ノ如シ

別紙

主要試験報告抜萃

試験実施部隊	陸軍技術本部	陸軍造兵廠東京研究所本部
試験報告	<p>昭和九年九月 陸技査射報第四四號 新爆薬ヲ填實セル投下爆薬 第一回試験報告 (安瓦薬填實爆薬ニ關シ填 實法火工作業法、砂井戸試 験、漏斗孔試験、機關銃彈 ニ對スル安全度試験ヲ實施 セリ)</p>	<p>昭和十一年一月 陸技査射報第六五號 安瓦薬ヲ填實セル爆薬傳火 薬研究第二回試験報告 (安瓦薬填實爆薬ニツキ投 下試験ヲナシ傳火薬ノ適否 ヲ試験セリ)</p>
判決	<p>數次ニ亘ル火工廠研究課ノ試験成績並今回ノ試験成 績ヲ綜合シ次ノ判決ヲ得タリ 一、試験安瓦薬ノ威力ハ黄色薬ト大差ナク其ノ衝擊ニ 對スル安全性ハ黄色薬ニ優ルトモ劣ルコトナシ而モ 本爆薬ハ資源豐富製造亦容易ナル等ノ特徴ヲ有スル ヲ以テ投下爆薬用炸薬トシテ頗ル有望ナリ 二、投下爆薬ヘノ填實法ハ作業ノ難易及防濕ヲ顧慮ス ルトキハ座填茶褐密封式ヲ最良トシ被包式之ニ亞 ク單ナル座填式ハ填實後直ニ使用スル場合ニ於テ ノミ適用スルヲ可トス</p>	<p>安瓦炸薬入新式大型爆薬ハ補助傳火薬筒ヲ使用セサ ルモ能ク炸薬ヲ完爆セシメ且其ノ總體的威力ハ現制 黄色炸薬ト大差ナキモノノ如シ</p>

關 東 軍	陸軍造兵廠 東京研究所	演松陸軍飛行學校
<p>昭和十一年四月 關北試報第六號 昭和十年度北滿ニ於ケル冬 季航空ニ關スル試驗報告 其三 (爆彈投下試驗) (北滿ニ於テ安瓦藥填實 爆彈ヲ投下セリ)</p>	<p>研射報第八二號 投下爆彈用新爆藥長期保存 第四回試驗報告 (安瓦藥填實三年間保存ノ モノニツキ砂井戸試驗ヲ實 施セリ)</p>	<p>昭和十一年二月八日 演飛研第一三六號 安瓦藥ヲ填實セル爆彈試驗 記事 (同右試驗演校報告ナリ)</p>
<p>安瓦藥填實爆彈ノ爆裂機能ハ概ネ良好ナルモ其ノ效 力ハ投下彈數僅少ナルタメ的確ニ制式炸藥トノ比較 試驗ヲ實施スルヲ得ス 所 見 昭和十年十二月伊良湖射場ニ於ケル九四式五十疋 爆彈及九二式五百疋爆彈ノ地雷的效力ハ制式炸藥 ヲ填實セルモノニ比シ約六割程度ニ減少シタルニ 鑑ミ更テニ多數彈ノ投下ニ依リ投下爆彈ノ炸藥ト シテ實用價值ヲ判定スルノ要アリ</p>	<p>茶褐藥ヲ以テ密封セルモノ及密封セサルモノハ何レ モ其ノ外觀及威力共ニ前同ニ比シ遜色ナク保存性良 好ナリ(前同トアルハ二年保存後ノ試驗ニシテ外觀 及威力共ニ變化ナキ旨判決アリ)</p>	<p>安瓦藥ヲ填實セル投下爆彈(十五疋及九四式百疋爆 彈ヲ除ク)ノ地雷的效力ハ茶褐藥又ハ黃色藥ヲ填實 セルモノノ地雷的效力ノ約六割程度ニ相當シ遜色ア ルヲ認ム故ニ更ニ北滿試驗成績ニ依リ投下爆彈ノ制 式炸藥トシテノ價值ヲ判定スルヲ適當ナリト認ム尙 其ノ吸濕性除去ニ關シテハ研究ノ要アリ又補助傳火 藥ノ有無ニ關シテハ大ナル關係ナキモノノ如シ</p>

<p>陸軍研究 航空所 技</p>	<p>陸軍研究 兵廠</p>
<p>昭和十二年十月 新爆薬試験記事 (二號安瓦薬ニ就キ漏斗孔 試験ヲ實施セリ)</p>	<p>研究報第九十八號 (二號安瓦薬ノ小銃彈ニ對 スル安全度試験ヲ實施セリ 昭和十二年九月)</p>
<p>「ウ」六號ノ爆發威力ハ同一炸薬量ヲ以テスレハ 黄色薬ニ比シ遜色ナキモノト認ム 黄色薬填實ノ制式爆彈ト之ニ「ウ」六號ヲ直填セ ルモノト認概ネ同一效力ヲ有スルモノト認ム</p>	<p>安瓦薬系ニシテ硝字二〇%ノモノハ熔融黄色薬ヨリ 安全ナリ</p>

(陸軍制式火薬表)

別紙第11

二號安瓦藥(案)	種別	爆藥
	番號	
	頁	

第一 成分及標準組成

硝酸アンモン	48%
硝酸グアニジン	32%
硝字藥	20%

第二 製造要綱

硝酸「アンモン」及硝酸「グアニジン」ヲ混合熔融シ之ニ硝字藥ヲ均等ニ混和ス

第三 主要用途

各種爆彈炸藥

軍事秘密(案)

陸軍省へ

整備區分	第一種
------	-----

1239

(陸軍制式火薬表)

別紙第五

二 號 安 瓦 藥 (案)	種 別	爆 藥
	番 號	
	頁	

軍事秘密(案)

第一 成分及標準組成

割合

硝酸アンモン	48%
硝酸グアニジン	32%
硝 字 薬	20%

51%
34%
15%

第二 製造要綱

硝酸「アンモン」及硝酸「グアニジン」ヲ混合熔融シ之ニ硝字薬ヲ均等ニ混和ス

第三 主要用途

各種爆彈炸薬

登録区分	第一種
------	-----

1240

兵器秘密取扱区分表

名

称

取扱区分

二号安瓦薬

軍事秘密

陸軍省 陸軍

別紙第廿

火薬製造要領(案)

二 號 安 瓦 薬

種 別	爆 薬
番 號	
頁	

軍事秘密(案)

第一條 原料及標準配合

硝酸アンモン	48 %
硝酸グアニジン	32 %
硝 字 薬	20 %

第二條 作 業

硝酸アンモンノ大部ト硝酸グアニジントヲ均等ニ混合熔融シ
之ニ硝酸アンモンノ殘部ト硝字薬トヲ均等ニ混合シタルモノ
ヲ添加シ均一ニ混和ス

要スレハ硝酸グアニジンハ硝酸アンモントヂシアンヂアミド
トヲ混和シ加熱化成シ熔融状態ニアルモノヲ使用スルコトヲ
得混和ハ特ニ均一ナルヲ要ス

造兵廠ハ

1242

航二發第五二六號

二號安瓦藥制式制定ノ件通牒

昭和十三年三月十五日

陸軍航空本部總務部長

小笠原

陸軍省副官 楠淵館一殿

昭和十三年三月十一日陸密第二二四號通牒ニ係ル火藥表（修正表共）
二〇〇部送付ス

追而現品ハ銃砲課へ直送ス可ニ付申添フ



軍